

タイトル：2021年度 教育セミナー（第17回）

日時：2021年9月16日（木）～19日（日）

オンライン開催

山田島宏幸（九州大学人文科学府）

私は、この度初めて中東☆イスラーム教育セミナーに参加させていただきました。この度の教育セミナーのプログラムは、ポスター発表を含む受講者の発表と講義担当の方々による講義によりほとんどが構成されていたため、この2点についての感想を述べさせていただきます。

まず、受講者の発表を聞いての感想ですが、まず私自身は教育大学出身かつ1年間の教員経験を経て九州大学の大学院に進学したため、今回のような学問的な教育セミナーに参加するのは初めての経験でした。そのため、歴史学研究に関する方法論や知識が乏しい状態であり、多くの発表者の方々の研究の報告を拝聴できたことは自身にとって新鮮な経験でした。私はイスラーム史を高校世界史（もしくは今後実施される歴史総合）においてどのように教えるべきかを検討していますが、具体的にイスラーム史のどの時代もしくはどの事象に焦点を当てて論じるべきかを模索している段階でした。発表者の方々の研究内容にはそれぞれオリジナリティがあり、私自身が今後具体的なテーマを設定していくために必要な視点を養うことの一助になったと感じています。

次に講義担当の方々の講義を受けての感想ですが、先ほど述べた通り、私自身が歴史学に身を投じたばかりであり、基礎的な知識が欠如しているため、講義担当の方々による基本的な知識の教授や、イスラームに関する研究の動向についての報告はとても新鮮かつ勉強になりました。個人的には、菅原先生による東南アジアのイスラーム史に関する報告が印象に残っています。東南アジアはムスリム人口が非常に多い地域であるにも関わらず、多くの中高生や大学生はその事実を知りません。これには、古典期偏重及びアラブ重視のイスラーム研究の残滓が拭いきれていないことが原因として挙げられています。このような状況下で、東南アジアにおけるイスラーム史を学校教育においてどのように取り扱うかを考える際に、東南アジアのイスラーム史を基礎的な事項から整理されていた菅原先生の報告は非常に勉強になりました。

最後に本セミナーの評価について、内容に関しては個人的に満足しておりますが、タイムテーブルの発表がもう少し早ければ、受講生のスケジュールの調整が行いやすかったのではないかと感じています。個人的な事情ではありますが、親元から自立して学生としての生活を送っているため、アルバイトのシフト調整を時間単位で行う必要性がありました。しかし、スタッフの方々が、日々ご多忙の中セミナーを開催して下さった事に対大変感謝しております。この場を借りてスタッフの方々および受講生の方々に御礼申し上げます。